

# 血管内治療の体制強化

## 地域医療を拓く

⑦

## 光生病院(岡山市厚生町)

わが国のがん(癌)による死亡原因では肺、胃に続いて肝臓が多く、その誘発原因となるC型肝炎ウイルス感染の潜在患者は200万人いるともいわれる。肝臓病はまさに「国民病」であり、厚生労働省も新年度から国を挙げての予防対策に乗り出す。これに対応して光生病院(岡山市厚生町)は今年1月、川崎医科大学附属川崎病院(同市中山下)から肝臓病で先進的な医療を実践している内科専門医・伊藤俊雄氏を院長に迎え、脳血管障害と肝臓を「切らずに手術」する血管内治療の医療体制を強化した。専門的な血管内治療の医療機関は県内ではまだ少なく、同院の先進的な取り組みが注目される。

混乱期の中で病気に苦しむ人であればだれでも受け入れるという精神から救急医療に取り組んできた。父は「昼夜を問わず身体を動かして人を助けろ」という言葉をよく口にしていた。その精神は今でも経営理念として掲げ、病院スタッフにも徹底させている。

―病院の特徴はどのにあるのか。  
理事長 まずは救急医療体制を挙げたい。救急医療は地域医療の基本であり、地域に開かれた病院の条



憶している。  
―現在の体制は...  
理事長 最高の医療スタッフをそろえていると自負している。その背景には岡山大学医学部附属病院が近くにあるという地の利があり、これまでには附属病院から専門医を派遣してもらって対応し、医療技術も移行してきた。現在では当院の医療スタッフに加え、脳神経外科や整形外科、循環器科などで附属病院から

理事長 患者本位の医療を考えると、患者にとって現在行える最善の医療を尽くすことが望ましい。そのためには最新鋭の医療設備と環境を整備し、その道の第一人者の医療スタッフによって治療を行わなければならない。これからは、病院の経歴だけでなく、病院スタッフの経歴も重要になってくるのでは。

―連携の成果は...  
理事長 過去には附属病院と共同で脳血管だけを立体的に映し出す三次元的画像診断法や脳血管障害の原因となる血栓(栓)をカテーテル方式で溶かす治療法を開発す

られるという。光生病院では一九九三年から他に先駆けて導入し、すでに四百症例にのぼる実績が、血管障害は時間との勝負

―病院内に介護老人保...  
理事長 全国でもユニークな研究成果を挙げた。今年一月には新院長に川崎医科大学附属川崎病院から肝臓病治療の専門医として知られる伊藤俊雄医師を増強した。二百四十八床の一般病棟と五十五床のデイケア、通所方式のデイケアがある。この建物の中に納められた医療は、移植手術を除いて、肝臓病や脳血管障害に限らず、多くの疾患で内視鏡を化した時は、すぐに高使用したり、度な医療サービスを受けられる。デイケアも治療を行う地域住民の交流の場となる形に移行して広く開放していると思う。

―当院としては非常に珍しい試みだった。  
理事長 そのほかにも在宅介護の血管内治療を当院の支援センターや訪問看護の柱の一つとした。地域医療の貢献に努力している。

―病院内に介護老人保...  
理事長 全国でもユニークな研究成果を挙げた。今年一月には新院長に川崎医科大学附属川崎病院から肝臓病治療の専門医として知られる伊藤俊雄医師を増強した。二百四十八床の一般病棟と五十五床のデイケア、通所方式のデイケアがある。この建物の中に納められた医療は、移植手術を除いて、肝臓病や脳血管障害に限らず、多くの疾患で内視鏡を化した時は、すぐに高使用したり、度な医療サービスを受けられる。デイケアも治療を行う地域住民の交流の場となる形に移行して広く開放していると思う。

―当院としては非常に珍しい試みだった。  
理事長 そのほかにも在宅介護の血管内治療を当院の支援センターや訪問看護の柱の一つとした。地域医療の貢献に努力している。

―病院内に介護老人保...  
理事長 全国でもユニークな研究成果を挙げた。今年一月には新院長に川崎医科大学附属川崎病院から肝臓病治療の専門医として知られる伊藤俊雄医師を増強した。二百四十八床の一般病棟と五十五床のデイケア、通所方式のデイケアがある。この建物の中に納められた医療は、移植手術を除いて、肝臓病や脳血管障害に限らず、多くの疾患で内視鏡を化した時は、すぐに高使用したり、度な医療サービスを受けられる。デイケアも治療を行う地域住民の交流の場となる形に移行して広く開放していると思う。

―当院としては非常に珍しい試みだった。  
理事長 そのほかにも在宅介護の血管内治療を当院の支援センターや訪問看護の柱の一つとした。地域医療の貢献に努力している。

## 大学病院と医療連携

### 佐能量雄理事長に聞く

今年、光生病院は開院五十周年を迎える。これまでを振り返っての感想は。  
理事長 当院は先代の父が復員後、井原市で開業した。昭和二十七年に今件だと思う。当院は昭和と、他の医療機関に先駆けて重傷患者を積極的に受け入れた。戦後の三十八年に救急指定病院に先駆けて重傷患者を積極的に受け入れた。戦後の三十八年に救急指定病院に先駆けて重傷患者を積極的に受け入れた。

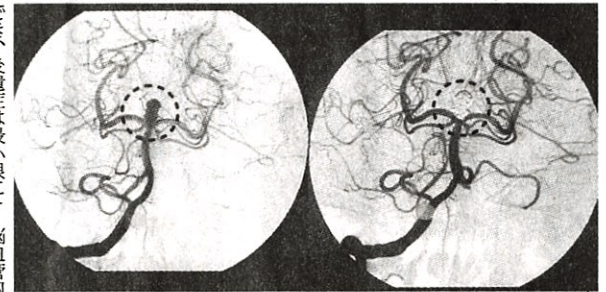
## 開頭せず時間短縮

### 脳血管内治療 後遺症も最小限に

光生病院は開院以来、開頭手術の代わりに、細い管を足の付け根の動脈に力を入れてきた。この救急医療の豊富な実績をベースに光生病院では早くから脳血管障害で先端医療の血管内治療を導入している。

―脳血管内治療はカテーテル治療と同じ要領で、開頭手術の代わりに、細い管を足の付け根の動脈に力を入れてきた。この救急医療の豊富な実績をベースに光生病院では早くから脳血管障害で先端医療の血管内治療を導入している。

この後バルーンを抜き取れば血流が回復する仕組みだ。  
―実際の治療はエックス線で透視した患部をモニター画面で確認しながら、手元の管を操作するという非常に高度で繊細なテクニックが必要となる。



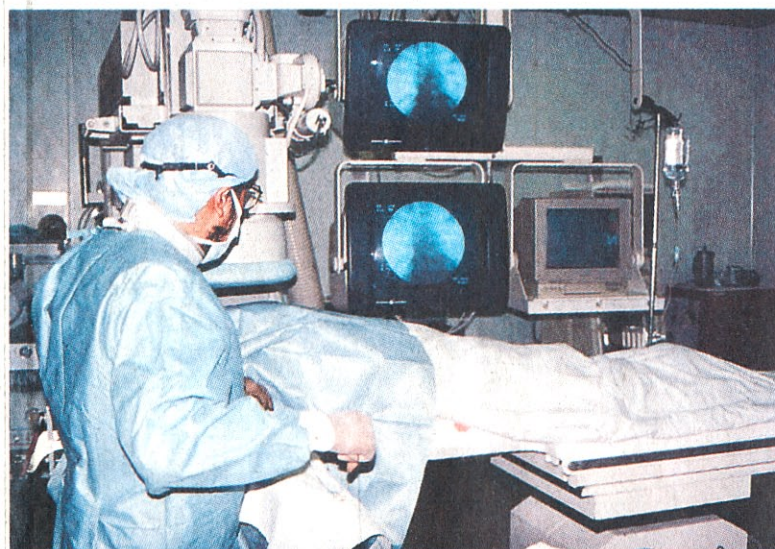
脳底動脈先端の脳動脈瘤(写真左の点線囲い)が塞栓術により完全に消失している(写真右の点線囲い)。こうした治療により、くも膜下出血を未然に防ぐことが可能である

脳細胞は血管が詰まると五、六時間もすればだめになる。開頭して血管のバイパス手術をして、時間的な問題から後遺症が残るケースが多い。これに比べ血管内治療はほぼ二時間半で処置できる。

脳血管内治療は非常に高度な技術と熟練が必要。岡山県内で実施している医療機関は光生病院と岡山大学医学部附属病院を含め数カ所に限られる。



街並みに夜のとぼりがあり、病院にはモーツァルトの弦楽五重奏曲が流れてくる。演奏しているのは医師や主婦らのボランティア。



右の上腕からカテーテルを挿入して脳血管内の障害をモニターを見ながら治療する脳神経外科のスタッフ

肝臓がんの治療はカテーテルの疾患部分に抗がん剤を注射したり、くも膜下出血、開腹手術による外科的治療の三つに別れる。ほとんどの患者は症状がひどい状態では手術が難しい。このカテーテル治療は内科治療が有効といえる。併せて、他の医療機関に先駆けて当院が導入しているのがマイクロ波熱凝固療法だ。



治療法とラジオ波熱凝固療法。患者の体から針を肝臓の疾患部に刺し込み、針から出すマイクロ波、ラジオ波を使って、がん組織を焼く。法の症例は約五千例、このうち約半は家庭で治療可能。当院では一回の治療時間は四十

## がん細胞を「兵糧攻め」

波が八十例ほど。県内医療機関ではまだ熱凝固療法を導入していない。この治療は、がん細胞を「兵糧攻め」する。患者の体から針を肝臓の疾患部に刺し込み、針から出すマイクロ波、ラジオ波を使って、がん組織を焼く。法の症例は約五千例、このうち約半は家庭で治療可能。当院では一回の治療時間は四十

波が八十例ほど。県内医療機関ではまだ熱凝固療法を導入していない。この治療は、がん細胞を「兵糧攻め」する。患者の体から針を肝臓の疾患部に刺し込み、針から出すマイクロ波、ラジオ波を使って、がん組織を焼く。法の症例は約五千例、このうち約半は家庭で治療可能。当院では一回の治療時間は四十

波が八十例ほど。県内医療機関ではまだ熱凝固療法を導入していない。この治療は、がん細胞を「兵糧攻め」する。患者の体から針を肝臓の疾患部に刺し込み、針から出すマイクロ波、ラジオ波を使って、がん組織を焼く。法の症例は約五千例、このうち約半は家庭で治療可能。当院では一回の治療時間は四十

波が八十例ほど。県内医療機関ではまだ熱凝固療法を導入していない。この治療は、がん細胞を「兵糧攻め」する。患者の体から針を肝臓の疾患部に刺し込み、針から出すマイクロ波、ラジオ波を使って、がん組織を焼く。法の症例は約五千例、このうち約半は家庭で治療可能。当院では一回の治療時間は四十